

入選

命を救うために

私はあの時まで水が人間にとってどれだけ大切なのか考えたことはありませんでした。あの時、私は生まれて初めて脱水症状になりました。

その日は、気温が高い夏の暑い日でした。当時、小学五年生だった私は、水泳を習い始めて約五年が経っていました。なので、学校での水泳の授業は楽しみにしていました。特に暑い日は「早くプールに入りたいな」と思いながら水泳の授業を待っていました。そして、待ちに待った水泳の授業。プールに入った私は、いつも通り友達とクロールや平泳ぎを泳いでいました。授業が始まってから数分後。私は早くから喉が渴き始めました。プールには水筒を持っていけないのに、楽しみだった水泳のことは考えていなかった私は、授業前に水分補給をすることを忘れていたのを思い出しました。でもその時の私は、まだ我慢できる状態だったのでそのまま授業を受け続けました。

授業の後半。私は喉がとても渴いていました。「そろそろ授業が終わりそう。早く終わって。」と思いながら時間が過ぎるのを待っていました。他の人もこの暑さを我慢して授業を受けているのだから、自分だけ授業を抜けて水分補給をしに行くとか言われそう。その不安があり、中々先生に話せませんでした。でも、「もう限界。」と思い、先生に話をする、「確かに。顔色が悪い。」と言われ、授業を抜けました。プールから水道までの距離は、そこまで長くないのに、とても長く感じました。歩いている最中、私の目には打ち上げ花火のような黒い点がたくさん見え、ほとんど前が見えない状態になりました。でも、何とか水道に着いた私は蛇口をひねり水を飲みました。目に見えていた黒い点は水を飲むたびに消えていき、いつもの視界に戻りました。私は「あの時先生に話さなかったら倒れていたかもしれない。」と後から思いました。この経験をして、人間にとって水はとても大切

だという

ことが分かりました。

私はしばらく経ってからインターネットで「水不足の国や人数」について調べてみました。すると、世界の人口、約七十八億七千五百万人中、約三十一億五千万人の人達が水不足の問題を抱えているそうです。特にアフリカやインドで水不足の地域が多く、その中で西アフリカの村では一日一人約五リットルしか水を使うことができないそうです。

次に「安全な水が飲める国」について調べてみると、安全といえる国、都市の数は世界で九ヶ国と二都市だけでした。その中に日本は入っていました。日本は安全な水が飲み使いできるのなら大切に一人一人使えば、節水に繋がります。安全な水を飲み使いできる国や地域が増え、水不足の人達が減ると思います。しかし、安全な水が使えるようになった今、節水のことを考える人は少ないと思います。だけど、節水をしている人はそのまま続けてほしいと思います。「節水をするのは嫌だな、めんどくさそう。」と思う人もいるかもしれませんが、節水をする事で水道代は安くなると思うし、水不足の人達も助かると思います。

私は脱水症状を経験して、自分より年下の人や高齢者の人などが、脱水症状になりそのまま何も飲めずに命を落としたりと考えると、とても怖く感じます。なので、日本は安全な水が使い飲みできるからこそ、節水ができるだけして、人を助けられたらいいなと思いました。また、安全な水を使えることに感謝を忘れないように。